

派遣者番号	R2K06	氏名	弘井 一樹
研究主題 —副主題—	よりよく生きようとする思いや願いを深める道德教育の在り方 —道德科における「物事を多面的・多角的に考える」ことを視点として—		
派遣先	帝京大学教職大学院	担当教官	赤堀 博行
所属	杉並区立杉並第一小学校	所属長	鈴木 知徳

キーワード：多面的・多角的に考える 道德授業の特質 道德的価値の理解

1 研究の背景（目的）・主題設定の理由等

(1) 主題設定の理由

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」（以下、解説編）の道德科の目標に新たに示された「物事を多面的・多角的に考える」は、道德科における重要なキーワードであると考えられるが、解説編には詳しく定義されていない。そのため、指導する際、多くの教員が戸惑いや難しさを感じる要因になっていると考えられる。そこで、本研究において、道德科の特質を踏まえた多面的・多角的に考えさせる指導の在り方を提案する意義があると捉えた。

(2) 研究の目的

よりよく生きようとする思いや願いを深める道德教育を実現するため、本研究では、基礎研究において、その要である道德科の特質を踏まえた学習指導についての理解を深める。その上で授業研究において、道德授業における「物事を多面的・多角的に考える」有効性に着目し、道德的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める道德授業の在り方を追究することを目的とする。

2 研究の方法

(1) 基礎研究

- ア 道德教育及び道德科の特質の考察
学習指導要領一般編（試案）（昭和26年7月）、小学校道德指導書（昭和33年1月）等から、それぞれ特質を考察した。
- イ 特質を踏まえた道德授業論の考察
道德科授業の理論について、基礎となった道德科授業論を文献調査し、道德科の特質を踏まえた指導方法について考察した。
- ウ 道德性と児童の発達の段階
道德性の捉え方と児童の発達の段階との関係性について考察した。

(2) 授業研究

事象に含まれるねらいとする道德的価値を『多面的』『多角的』に考える発問の在り方について定義した。

(3) 実践研究

低・中・高学年それぞれにおいて検証授業を実

践し、指導効果の検証を行った。

3 研究の結果

(1) 基礎研究

- ア 道德教育及び道德科の特質への理解
道德科は、学校教育全体で行われる道德教育を「補充、深化、統合」する役割と、「道德的価値を自分との関わりで理解を深める」という特質は不易であると理解した。
- イ 道德授業論の考察
道德的価値の理解を自分との関わりで深めさせるために、読み物教材の登場人物への自我関与を深めさせ、児童の道德的価値観を登場人物に託して多様な感じ方、考え方を引き出す「教材の『共感的活用』」を行う意義を理解し、その高い指導効果を生かして指導する必要性を考察した。
- ウ 道德性と児童の発達の段階
ピアジェやコールバーグの理論を考察し、学年が上がるにつれて他の道德的価値との関わりを広げて考えさせることが有効ではないかと考察した。
- エ 本研究における言葉の定義
(ア) 「多面的に考える」
一定の道德的価値に関わる事象を様々な側面から考えること
(イ) 「多角的に考える」
一定の道德的価値に関わる事象を、他の道德的価値との関連を捉えながら考えること

(2) 授業研究

- ア 道德的価値を「多面的に考える発問」
(ア) 価値理解をより深める
道德的価値を実現する意義やよさについて、視点を変えて考える発問を構成する。
(イ) 人間理解をより深める
道德的価値を実現する難しさを様々な視点から考える発問を行う。
(ウ) 価値理解、人間理解を深める
道德的価値を実現する意義やよさ、難しさの両面を考えさせる発問を構成する。

- (エ) 他者理解をより深める
 道徳的価値を実現する意義やよさだけでなく、困難さなどについても一体的に考えさせる発問を行う。

イ 道徳的価値を「多角的に考える発問」

- (ア) 価値理解をより深める
 ある一定の道徳的価値の実現が、他の道徳的価値の実現に支えられていることを考えさせる発問を行う。

- (イ) 人間理解をより深める
 ある一定の道徳的価値の実現や未達の背景には、他の道徳的価値も関わることを考えさせる発問を行う。

- (ウ) 他者理解をより深める
 ある一定の道徳的価値の実現や未達の背景となる感じ方、考え方を多様に考えさせる発問を行う。

(3) 実践研究

ア 研究仮説

児童が道徳的価値に関わる事象である「多面的・多角的に考える」学習を、発達段階を考慮して設定していくことで、児童自身が多様な感じ方、考え方に接するよさを実感しながら、道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める道徳授業へと改善されるであろう。また、学校の教育活動全体で行われる道徳教育の中でも、児童はよりよく生きようとする思いや願いを深めることができるであろう。

イ 検証授業に対する評価の観点と方法

- (ア) 観点
 本時で構想した、ねらいとする一定の道徳的価値を多面的・多角的に考える発問や発問構成などの指導方法の工夫について、以下の観点から把握した。

- ・児童の実態や発達の段階に応じたものであったか。
- ・道徳的価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）を自分との関わりで深める上で有効であったか。
- ・児童の自己の生き方についての考えを深める上で有効であったか。

(イ) 方法

- ・逐語記録
- ・ワークシートの分析
- ・検証授業のビデオ記録の分析
- ・板書の記録の分析
- ・児童の自己評価の考察

ウ 検証授業の経過（表1）

表1 検証授業の経過

高学年 5年	〔B 相互理解、寛容〕 主題名：謙虚な心、広い心をもって 教材名：「ブランコ乗りとピエロ」
中学年 4年	〔C 公正、公平、社会正義〕 主題名：公正、公平に接するよさ 教材名：「同じ仲間だから」
低学年 2年	〔B 感謝〕 主題名：心からの「ありがとう」 教材名：「きつねとぶどう」

4 研究の考察

(1) 検証授業のまとめ

ア 逐語記録、ワークシートの分析から
 十分な時間を確保した書く活動や、本時の指導の意図に基づく問い返しを行ったことで、記述や発言において、児童の道徳的価値観に基づく多様な考え方が引き出せた。

イ 児童の自己評価の考察から
 自己評価からは、学年が上がるに従って「よくできた」という回答の割合が高くなったことから、「物事を多面的・多角的に考える」学習は、学年が上がるに従って多様な感じ方、考え方から学び、自己を見つめる学習効果が高くなることが分かった。

ウ ビデオ記録の分析から
 ワークシートの記述を机間指導しながら見取ることで、多様な感じ方、考え方を引き出す意図的指名を行うことができた。

エ 板書記録の分析から
 教材の特定場面、条件を外して、道徳的価値の一般化を図る板書を心掛けることで、展開後半部分の学習を広げたり、深めたりすることにつながった。

(2) 研究全体のまとめ

道徳教育全体計画を基に、小学校6年間を見通した計画的、発展的な指導を行いながら、家庭や地域社会と共に、よりよい道徳教育への改善に向けた「道徳教育マネジメント」を行う。その要である道徳授業において「物事を多面的・多角的に考える」学習を重視することで、児童が自己理解をより深め、自己の生き方についての考えをより深めていけるようになり、よりよく生きようとする思いや願いを深めていく道徳教育へと改善を図ることができる。

5 今後の展望

道徳科の特質を生かした指導方法への理解を深め、道徳科における「物事を多面的・多角的に考える」発問の工夫について、研究成果をより多くの先生方に還元できるよう努めたい。